複式学級編制による授業実施に向けた取組について

令和3年度から、国及び長野県が定める基準による学級編制（複式学級編制を含む）を行うため、令和2年度を準備期間として、各種取組を実施してまいります。

複式学級とは

- 2以上の学年の在学者で構成されている学級のこと
- 授業においては、1人の教師が、1単位時間の中で、それぞれの学年を移動して指導する
- 長野県においては、2つの学年を足した人数が8人以下となる場合、複式学級となる※

※国基準では、小学2～6年生は16人

長野市における複式学級の状況

○ 長野県基準により学級を編制する時代を経て、近年は、県基準を下回る場合、市費により教員を加配することで、学年ごとに学級を編制してきた

○ 「長野市活力ある学校づくり検討委員会」答申（平成30年6月）を受け、より多様性ある集団の中での学びの環境を構築するため、複式学級の実践的な研究を経て、令和3年度から複式学級編制による授業を実施する

複式学級編制による授業実施に向けた取組

【複式学級における指導の様子】
教室の後ろ（左向き）に5年生、
教室の前（手前向き）に6年生

【平成30年度、31年度】

大岡小学校において、複式学級編制に向けた実践的な研究を実施

- 連学年で同教科の学習が可能となるように時間割を作成
- 複式学級形式での授業を年間90回以上実施
- 市内他校の教員を招いての研究会を実施

【令和2年度】

○ 大岡小学校については、先行して複式学級編制による授業を実施

○ 長野県の基準において複式学級編制となる学校（大岡小学校以外）について、
複式学級編制による授業を試行的に実施

- 連学年で同教科の学習が可能となるように時間割を作成
- 各校、複数科目において複数回の研究授業を実施

【令和3年度以降】

長野県が定める学級編制基準による複式学級編制とする